

女性の社会進出への第一歩

G1 班

宮城県仙台第三高等学校

男女不平等は現在解決すべき問題となっており日本もその例外ではない。男女差別の解決のために男女平等ランキングやアンケートにより調査を行ったところ上位国と下位国で男女の働き方に違いがあることが分かった。これは男女間の固定観念が原因だといえる。そこでその意識を変革する方法で高校生でも可能なものとして家事の分担を提案しその効果についても考察した。

1 背景

世界では男女差別が問題視されており、女性の社会進出が GDP の向上につながることは明らかである。また、日本でも男女差別は古くから問題視されておりジェンダーギャップ指数は 144 国中 121 位という順位であり深刻な状態となっている。この問題の解決には個人のみでの力だけでは不十分であり、行政や国際的な政策が必要となる。しかし、今回は高校生一人一人でもできることがないか調査することで男女差別の解決の「第一歩」として少しでも貢献できるのではないかと考え本探究を始めた。

2 材料と方法

① 世界男女平等ランキング

世界男女平等ランキングの上位と下位 3ヶ国を挙げ、上位国での共通点、下位国での共通点を挙げ、男女平等に近づいている国とそうでない国を比較することで下位国に不足しているものを明確化する。

② アンケートによる調査

仙台三高 56 回生を対象に以下の 3 項目の質問を提供し回答を得ることで男女平等に関してどのような考えを抱いているか把握する。

質問事項

- (1) 男女間で不平等を感じたことはあるか
- (2) それはどんな時か
- (3) 男女が社会で平等になるために自分たちがどうすべきか

3 結果と考察

① 世界男女平等ランキング

図 1 世界男女平等ランキングの上位下位三国とその特徴

②アンケート結果は以下の通りである

- (1) 男女間で不平等を感じたことはあるか。
- (2) 性別による職種の制限やもともとの風習。
- (3) 男女の機会を平等にし、性別の違いを理解するなど性別の固定観念をなくすよう努める。

4 を分担 考察

4-1 結果からみられる下位国の課題

結果①より男女平等ランキング下位国では男性の家事の時間に対して女性の家事の時間の割合が高いという結果が得られた。この特徴は日本にも当てはまる。これに対し上位国では男性も女性もフルタイムで仕事をし、男性の育休取得が義務付けられている国もある。また、職種は制によって差別されず個人の適性に沿って選ぶことができる。次にアンケートによる結果からやはり大多数の人が男女不平等を感じていることが分かった。質問事項(3)より男女平等の実現には固定観念の払拭が必要であるという意見が多かった。本探究の目的である高校生でも可能なことという観点から、男女間の固定観念を払拭するための方法を考えることが最も現実的だといえる。

	国名	特徴
上位国	アイスランド ノルウェー スウェーデン	女性もフルタイムで働き性別による職の区別がない 議会における女性の割合が高い 男性の育休取得率が高い
下位国	イエメン パキスタン イラン	男性は外で働き女性は専業主婦という習慣が根強い 児童婚が蔓延し働く機会が与えられていない

図 1 世界男女平等ランキングの上位下位三国とその特徴

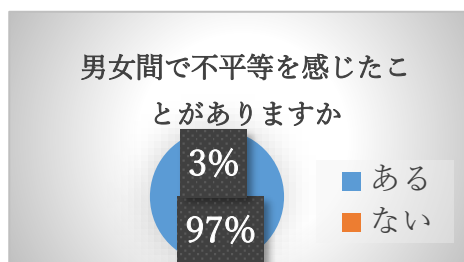


図 2 アンケート結果

4-2 男女平等実現の「第一歩」となる方法

その解決の方法の一つに家事の分担を提案する。家事の分担を家族間で行うことによって女性が家事を行い男性がその手伝いをするという意識を払拭できる。このことにより家庭という身近な場でジェンダー平等の精神を築くことができれば男女平等の「第一歩」となるのではないだろうか。さらに女性が家事を行う時間を減らすことができれば仕事に費やす時間を増やすことにもつながり女性の社会進出のきっかけともなる。しかし、家事を分担するには男性が残業により家事を行える時間をとることができないという点を考慮しなければならない。そのためには行政による残業時間を減らす取り組みや女性が不平等を

感じずに働ける環境づくりが必要となる。しかしそれだけでなくゴミ出しや炊事など出勤する前にできることを主に行うことで男性と女性の家事分担の割合が50:50となるようにすべきだ。また、育児休暇の保証や短時間労働など行政のサポートを手厚くすることで仕事が忙しい家庭でも分担ができると考えた。女性が社会進出できるような取り組みを国全体でしていく必要があると思う。

このような取り組みにより日本が男女平等な国になることで環境は違うものの固定概念から生まれる発展途上国の男女差別問題を解決するための手助けになると考える。

【参考文献】

○【解説】グローバル・ジェンダー・ギャップ指数

2020年6月29日

https://i0.wp.com/ch-gender.jp/wp/wp-content/uploads/2014/03/2013_Gender_gap_index_world_map_Gender_Inequality_Distribution.svg_1.png?ssl=1

○【国際】世界「男女平等ランキング2020」

<https://sustainablejapan.jp/2019/12/18/global-gender-gap-report-2020/44753>

○北欧で働く女性が活躍できる理由

<https://fledge.jp/article/northerneurope-childcare>